

## 論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学部 専攻	氏名	クナーコーンヴィラクン・ヤニサ
題名	チェンマイ市における雲南系ムスリムのエスノグラフィ ーネットワーク、ライフスタイルおよびアイデンティティの変容に着目してー		
<p>本研究は、中国雲南省からタイ北部に定住した移民の歴史を踏まえ、その子孫である雲南系ムスリムのアイデンティティ変容について検討するものである。雲南系ムスリムのアイデンティティは、タイ北部の社会の社会・文化・政治的文脈、および経済状況、との相互作用により、不安定に変容しながらも形成されてきた。また、宗教的あるいは経済的支援を受けるために、国境を越えたコミュニケーションが行われ、その結果として、出身国とのネットワークが構築された。</p> <p>本研究の対象グループは、タイ北部チェンマイ県の都市に居住している雲南系ムスリムである。同県において、雲南系ムスリムは大きく二つのグループに分けられる。一つ目はチェンマイで最も古いムスリムグループである。彼らは市内に住んでおり、1916年前より前にタイに移動した。二つ目は、1949年前後の中国内戦やその後の冷戦によって国民党軍とともに越境し、タイ北部の国境地域に住んだグループである。本研究では、ムアンチェンマイ群バーンホーとアッタタカワー・コミュニティにおける雲南系ムスリムを対象として、家族、言語能力、宗教実践、祖先に関するアンケート調査を実施した。本研究の調査結果を簡潔にまとめると以下の通りである。</p> <p>雲南系ムスリムは、タイ社会の文脈と異文化の影響を受け、異なる宗教的・言語的背景を有する人々と共存できるように適応してきた。この過程では、雲南系ムスリムの子孫は、言語、文化、中国の伝統など、先祖からのアイデンティティの継承は限定的になったことが想定された。それに対し、これらのグループに残っているのは、まずはライフスタイルとして表現された宗教的な信仰である。つまり、彼らは教理を厳守した生活を送っているのである。また、中国系タイ人として中国のアイデンティティも表出している。彼らはタイ語、タイ北部方言、マンダリン語、雲南語など、多くの言語を話すことができる。雲南系ムスリムは、モスクを中心にコミュニティとして住み、宗教指導者はコミュニティのリーダーを担当する。ムアンチェンマイ群における雲南系ムスリムが、20世紀半ばにイスラームを復興した後、組織や協会などの宗教的集団が構築された。そして、タイ全体のネットワーク間でコミュニケーションをとり、宗教組織も強化された。こうして、ムスリムとしてのアイデンティティは主要なものになったのである。その後、雲南系ムスリムの一部は中国あるいは民族的アイデンティティの維持を優先させた。雲南料理などを通じて中国の文化を振興しているケースも見受けられる。使用言語に関しては、雲南系ムスリム新世</p>			

代が家庭の内で雲南語を使用することが少なくなる傾向がある。むしろ、中国の親戚への連絡、仕事のためにマンダリン語を使用する機会ができると、経済的な地位の向上がみられることが明らかになった。

以上の調査結果からは、ムスリムのアイデンティティの変容傾向が明らかになった。社会の変化とテクノロジーの進歩が彼らの宗教実践に影響を与えたと考えられる。将来的に、雲南系ムスリムの主要なアイデンティティは更に複層的に変容を遂げていく可能性がある。

雲南系ムスリムのアイデンティティ変容に関する上記の検討を通じて、本論のまとめにおいては、雲南系ムスリムと他民族間の関係にかかわる問題を指摘する。